寄稿　北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008への出展

武井　徹（たけい　とおる）
地球環境委員会委員長
環境総合展タスクフォース座長
住友商事株式会社　環境・CSR部長

1．環境総合展参加決定の経緯

近年の地球規模の環境問題に対する関心の高まり、そして、地球温暖化対策を主要議題の一つとする洞爺湖サミット開催を機に、2008年度より、日本貿易会では6月を商社環境月間と定め、この期間に集中的に環境問題への取り組みを展開していくことにした。

折から、高橋はるみ北海道知事を実行委員長とし、北海道内の産学官が結集した、北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008実行委員会が組織され、洞爺湖サミット直前の6月19～21日の3日間、札幌ドームを会場として開催される本総合展への参加が募集されていた。日本貿易会として環境関連の展示会への参加は初めての試みではあったが、商社環境月間における活動の一つの柱として本総合展へ参加することを決定した。本総合展には、北海道内外の企業・団体を中心に300を超える参加応募があり、当会の申し込んだ小間数は最終的に半減し、2コマとせざるを得なかったが、3月末より、限られた展示スペースの中でいかに効果的な展示を準備していくかの検討を進めることとした。環境総合展出展に係る検討、準備作業は、当委員会の委員会社10社よりメンバーを募り、組成した環境総合展タスクフォースを中心に進められた。

2．出展の準備

環境総合展タスクフォースにおける諸準備作業においては、出展コンセプトをいかに考えていくか等について白熱した議論が展開された。限られた展示スペースといった物理的制約や、地元小中学校の児童が数多く来場するとの事前情報等を踏まえ、単に会員企業個社の集合体ということではなく、業界団体である日本貿易会の実像をどのように示すかという観点から、タスクフォースのメンバーの知恵を集約し、出展のコンセプトおよび具体的な展示内容を固めていった。キーワードは「世界のことは日本のこと。守ろう、地球。日本貿易会。」とし、具体的には、日本貿易会概要の紹介、2002年制定の「環境行動基準」を踏まえて、日本貿易会が1997年より取り組んできている環境自主行動計画の策定・実施等の環境関連の地道な活動の紹介を通じて、日本貿易会の環境への取り組みを幅広く来場者の方々にご理解いただくとともに、会員各社がグローバルに展開するさまざまな環境ビジネス、環境関連の社会貢献活動等を中心に紹介し、商社業界の活動のダイナミズムをご理解いただける内容の展示という考え方に沿って準備を進めていった。

準備時間が限られていたものの、上記のコンセプトに基づき、効果的な展示という観点から、展示スペースで放映する映像、小間に展示するパネル（P.84参照）、そして会場で配布するパンフレットの作成を進めた。会員各社からは、それぞれの媒体のコンテンツを提供いただき、「美しい地球の未来を守る、グローバルな環境保全活動」というテーマに沿って、「資源を守る」「自然を守る」「人間を守る」と題して、商社が取り組むクリーンエネルギー開発、環境保全活動、そして人材育成に資する国際社会貢献活動を中心に幅広く情報を収集、編集し、それぞれの媒体を完成させていった。さらに、来場

する児童のために、「楽しく学んで目指そうエコ博士！」と題し、楽しみながら環境に対する関心を高めてもらう簡単なクイズ映像も準備した。

このように、短期間に集中して準備作業を進め、環境総合展に臨んだわけだが、事前に総合展事務局から、札幌ドームの広い展示会場を緩やかにテーマごとのゾーン化をしているとの情報があり、果たして当会と同じゾーンに出展する企業・団体の展示内容との重複はないか、あるいは、同じゾーン内で自社製品のデモンストレーションを行う予定の他展示ブースとの比較で、当会の展示のインパクト度合いはどうか等々を考えていくと、期待される出展の成果を挙げられるか若干の不安感も抱きながら開幕を迎えた。

3．環境総合展の状況

環境総合展主催者側では、当初、展示会開催の3日間の来場者数を6万人と見込んでいたが、実際には8万4,000人の来場ということで、予想を大幅に上回る盛況ぶりであった。日本貿易会展示ブースにも数多くの来場者に足を運んでいただいた。日本貿易会では、展示内容に対するコメントや、環境問題の解決に向けて商社に期待する役割等を記入いただく簡単なアンケート調査を800名分準備して臨んだが、最終日のお昼すぎには、800名分すべてのアンケートの回答を回収するという状況で、環境総合展の盛況ぶりを実感すると同時に、開幕前の不安は的中しなかったことに安どしたのが率直なところでもあった。

来場された方々には、当会の展示内容を通じて、地球規模で多様な環境関連の活動を展開する商社業界の実像についてのイメージを印象深くご覧いただけたとは思われるものの、短時間で、広範かつ総合的に展開する商社業界の細部に至る取り組みを理解いただくには若干難しい面もあったように感じられた。しかし、その一方で、日本貿易会ブースに展示されているタイのタピオカでん粉工場からの排出権獲得事業について、非常に熱心に質問をしてくれた地元中学生もおり、短時間のやり取りではあったものの、若い世代の環境問題に対する関心の高さを感じさせられる場面もあった。

このように、環境総合展は、日本貿易会にとって、展示ブースに来場されたさまざまな年代の方々とじかにコミュニケーションを取り、日本貿易会の活動についての情報を積極的に発信する貴重な場であった。当委員会および当タスクフォースメンバーの数多くの皆さまに出張いただき、展示ブースでの応対をお願いできたことが日本貿易会展示ブースの盛況さを増すことにつながったものであり、あらためてご協力いただいた各社の皆さまには感謝申し上げたい。

4．まとめ

前記のとおり、環境関連の展示会への参加は今回が初めてであったということから、今後、同様の活動を進めるうえでの個別の改善点はあると思う。しかし、日本貿易会の環境に対する取り組みに関して、本総合展への出展を通じて外部に積極的に情報発信し、日本貿易会の活動を理解いただくという目的からは、環境総合展への出展は一定の成果を挙げられたものと思う。もちろん、単発的な展示会の参加ですべてがかなうものではなく、今回の経験を活かし、今後、継続的な取り組みが必要かと思う。

展示媒体の作成を通じてあらためて認識させられたことは、環境分野においても商社業界が取り組んでいる活動は、極めて多岐にわたり、活動範囲はまさに全世界に及んでいるという点である。環境問題が地球規模の広がりを見せている現在、グローバルに環境関連の活動を展開する商社業界は、問題解決に向けて一定の貢献を果たせる立場にあると言っても過言ではないと思う。環境問題への取り組みは今後ますますその重要性が増してくることは間違いなく、日本貿易会が標ぼうする「未来をひらき、世界を結ぶ」を実践するうえで、環境という切り口からのアプローチは不可欠なものであると思う。地球環境委員会では、商社環境月間の制定、同月間の初年度の活動である環境総合展への出展を契機に、今後、一層、環境問題への取り組みを推進していく所存である。

一宮　將人（いちみや　まさと）
環境総合展タスクフォース副座長
三井物産株式会社　CSR推進部地球環境室

このたび、環境総合展タスクフォースメンバーとして、北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008の出展準備ならびに会場での接客を担当させていただいた。主催者との調整もあって、出展が正式に決まったのは2008年4月初めのことで、同総合展開催（6月19～21日）までに2ヵ月半しかなく、十分な準備ができるか心配される中、制作会社を起用し、準備を進めた。展示スペースでの放映ビデオ、パネル、配布用パンフレット等を製作することとなったが、会員各社に環境関連のビジネス、社会貢献活動についての写真、ビデオ等コンテンツの提供をお願いしたところ、会員会社からの積極的な協力が得られ、十分なコンテンツがそろった。過去に撮影した写真やビデオの切り貼りで、果たしてどのようなものが出来るか心配したが、制作会社は手慣れたもので、タスクフォースメンバーの納得がいくビデオ、パネル、パンフレットが出来上がった。

いざ本番となり、開始当初のブースの来訪者はまばらで、集客が心配された。しかし賞品付き環境関連クイズ（正解者にダイナモ式懐中電灯を進呈）や、景品付きアンケート（回答者に「JFTC」ロゴ入りエコバックを進呈）を繰り返し行ううちに来訪者は増え、心配は杞憂（きゆう）に終わった。特にエコバックの威力は大変なもので、エコバックがもらえるというううわさも手伝い、アンケート回答希望者が後を絶たず、用意した800名分すべてのアンケートを回収した。

ブースの来訪者は会社員、大学教授、研究者のほか、小中学生を含む一般市民と多彩で、将来、商社に入り世界を股（また）に掛けて活躍したいと夢を語る頼もしい学生がいた反面、日本貿易会や商社の活動についてほとんど知らない人も多く、本出展は日本貿易会ならびに商社の活動をアピールする良い機会になったと思う。

最後に、日本貿易会には今後も継続的に活動を対外アピールする機会を持たれることを期待したいと思う。このたびは短期間で簡単な展示媒体を準備したが、十分な製作時間をかけ、展示媒体を用意されることを会員会社でご議論いただければと思う。

クイズ大会

パネルやビデオを見ながら
アンケートに回答する来場者